

令和3年度 事業報告

【 部 署 】	施設本部
【 計 画 】	<p>1. 職員の知識・技術の底上げ</p> <p>① 新入職員指導者・介護実習生の受入れ担当者を増やす ※外部研修に参加し、指導者としてのノウハウを学ぶ ※報告の場を設け、学んだことを伝える力を身につける</p> <p>② 外部研修（ZOOM含む）の受講推進・アウトプットを身につける ※ZOOM研修の体制をつくる ※資格・経験に応じた研修の受講を促し、研修後の情報発信を身につける</p> <p>③ 委員会活動を通して、責任感・使命感を持って「動く」ことを身につける</p> <p>2. 労務管理・職場環境の改善</p> <p>① 離職率を下げる ※フロアの二分化を図り、職員同士の協力体制を強化 ※定期的な職員面談を実施する</p> <p>② 有給休暇取得率の向上 ※取得日数の偏りを無くす（事前申請の徹底を図り、バランスよく取得出来るよう管理）</p> <p>③ コンプライアンスの徹底（ハラスメントの周知）</p> <p>3. 設備投資</p> <p>① 本館エレベーター（1号機・2号機）昇降機改修工事</p> <p>② ショートステイ送迎車 タント買い換え</p>
【 結 果 】	<p>令和3年度職員定着率81.16%</p> <p>1. 職員の知識・技術の底上げ コロナ禍で研修の体制を整えるべく動画配信の研修を取り入れたが、うまく活用できず。外部研修についても、中止・延期などで「学ぶ」機会がなかった。</p> <p>2. 労務管理・職場環境の改善 必要に応じて職員の面談を行い、職場環境の改善を図っていく中で「接遇」「コミュニケーション」の課題が残った。 感染症流行に伴い、フロアを超えた協力体制を作ることが出来、フロア二分化に繋げられる課題が見える化したように思う。 感染症流行により、ハラスメント研修が中止となる。令和4年度よりハラスメント防止法が義務化となるため、職員に対して周知・啓発を行っていく。</p> <p>3. 設備投資 計画通り、エレベーター改修工事・送迎車輛の入れ替えを実施。 又、介護ロボット等（眠りSCAN・インカム）を導入。利用者個々のケアの見直し・職員の精神的・身体的負担の軽減に繋げるべく、チームを編成し課題に取り組んでいく。</p>
【 改 善 】	<p>新入職者に対する接し方・指導方法などを中堅職員に対し指導し、積極的に関わることで、新入職員の定着化を図る。</p> <p>「接遇」「コミュニケーション」は、職員一人ひとりに関わりながら「伝える」ことを実施し信頼関係を築いていく。</p>

【 部 署 】	相談員 【総合】
【 計 画 】	<p>1. 総稼働率97.0%</p> <p>① 相談員3名が特養・ショートステイ利用者の状態やその他申し送り事項を共有し、入所・ショートステイ相談に柔軟に応じられる体制にする</p> <p>② 入院者の状態を把握し、ショートステイ空床利用に繋ぐ</p> <p>③ 居宅・老健・病院等への営業活動と申し込み状況を随時発信する</p> <p>④ 介護保険制度の改正による加算対応 ⇒ 実施 ⇒ ケアの向上 ⇒ 稼働率向上を意識する</p> <p>2. 利用者・家族の意向や思いの把握</p> <p>① 利用者 ※利用者からの意向や相談、職員からの情報に早期に対応 ※利用者の状態を把握し、より良い生活が送れるよう提案・相談</p> <p>② 家族 ※面会時等家族とのコミュニケーションを図り、要望・意向を捉える ※利用者の状態を把握し、随時家族と話せる関係を構築する</p> <p>3. 相談員としての能力の向上</p> <p>① 外部研修（オンライン研修含む）に積極的に参加し、相談員としての専門性を身につける</p> <p>② 発信力を意識し、相談・調整に繋げる</p>
【 結 果 】	<p>1. 実績総稼働率94.09%</p> <p>共有フォルダを作成する事で、不在時の連絡事項等を相談員の間で共有する事ができた。各地域連携担当者に入院者の状態把握の為連絡し、ベットコントロールを行ってきたが、営業活動不足もあり空床利用するまでに至らなかった。</p> <p>2. 利用者・家族の意向や思いの把握</p> <p>コロナ禍にて面会を実施することがあまり出来ず、ご家族とのやり取りの機会が減ったが、施設から連絡する際は、出来るだけ身体状況等を伝えるように心掛けた。入所者の方への対応としては、LIFEへのデータ送信する事により、状態把握を定期的に意識・評価する事ができた。</p> <p>3. 相談員としての能力の向上</p> <p>【クレーム・苦情への対応研修】等ご家族との連絡、調整等のオンライン研修に参加。</p>
【 改 善 】	<p>特養に関しては、入所申込み者の面談や状態の把握を行っていたが、受入可能時期等の調整が遅れる事があり、更なる相談員間のコミュニケーションが必要である為、定期的に相談員会議を行う。</p> <p>コロナ禍のなか、ご利用者、ご家族が安心頂けるよう感染状況に応じた面会方法や、連絡等これまで以上に意識し伝えていく。</p> <p>LIFEの算定は、現在定期的に評価を行っている、ご利用者一人一人の状態を職員が意識できるよう今後も継続する。フィードバックが今後本格的に始動すれば、フィードバックデータを活用しケアの向上に繋げていきたい。</p>

【 部 署 】	相談員 【特養】
【 計 画 】	<p>1. 実質稼働率96.0%の達成</p> <p>① 入所待機希望者のリストを作成し、状況把握に努め、速やかに入所できる体制を整える</p> <p>② 居宅・老健・病院との繋がりを強め、入所希望者の紹介を得る</p> <p>③ 病院MSWと密に連携し、入院中の症状を把握し、早期退院の受け入れ体制を整える。又、退院が見込まれない時も、家族の意向を確認し、方向性を支援する</p> <p>2. 入所検討委員会の充実</p> <p>① 委員会を細目に開催し、申込者の状態把握や職員間の連携を図り、入所の可否の判断を速やかに行う</p> <p>② 居室・フロア移動等ベットコントロールを職員間連携のもと検討する。</p>
【 結 果 】	<p>1. 実質稼働率96.0%の達成</p> <p>年間稼働率が94.43%と稼働率目標より△1.57%となる。8月までは稼働率プラス水準ではあったが、徐々にマイナス水準となる。緊急事態宣言の発令や、施設内感染症（ノロ・コロナ）の流行もあり、在宅や老健、病院への面談や受け入れがストップすることもあり、稼働率アップに繋がらなかった。</p> <p>2. 入所検討委員会の充実</p> <p>毎月の入所検討会やその都度必要時に入所検討会は行った。</p>
【 改 善 】	<p>入院者等の空きベッドがあれば、迅速に受け入れ態勢を整えるべく、日頃から各方面（居宅・老健・病院等）の担当者とのやり取りを密に行い待機者の動向を把握する。又、早期受け入れ体制を整える為にも、職員間連携を図りながら会議を実施していく。</p>
【 部 署 】	ショート相談員
【 計 画 】	<p>1. 稼働率103.5%の維持</p> <p>① 細目に空き情報を区域内事業所に発信し、受け入れを柔軟に対応する</p> <p>② 特養相談員と情報を共有し、緊急の場合にも柔軟に受け入れできる体制を整える</p> <p>2. 新規利用者の定着</p> <p>① アセスメント時に情報収集し、利用者や家族の意向に沿った対応</p> <p>② 居宅事業所との情報共有に努める</p>
【 結 果 】	<p>実質稼働率平均95.84%</p> <p>事業所への挨拶を数回しか行えず、細目な空き情報を発信することが出来ていない月が多かった。しかし、他職種と連携して緊急の利用には可能な限り対応することが出来た。定期的なショート利用につながるケースが多く、固定客として定着いただけたと感じる。</p>
【 改 善 】	<p>定期利用者の入院や入所、感染症の流行で受け入れがストップしてしまった事などもあり、早急に予約キャンセルを埋めることが出来ていない。居宅事業所と連携を深め、紹介していただけるような関係性を構築したい。</p> <p>また定着して利用につなげるために、楽しく過ごせたと感じて頂けるような環境づくりや、家族が安心して預けることが出来るようなサービス提供が出来るようにフロア職員とも協力していきたい。</p>

【 部 署 】	特養介護主任
【 計 画 】	<p>1. 利用者のより良い生活を構築</p> <p>2. 職員の介護スキルの向上</p> <p>① 研究発表会を開催 ② 外部研修（ZOOM 含む）への参加</p> <p>3. フロアの二分化を図り、職員のフロア対応力を強化</p> <p>① 二分化に向けた、業務の見直し</p>
【 結 果 】	<p>1. コロナ禍でクラブ活動、行事の縮小化が進む中、少しでも変化のある生活を、と職員と一緒に野菜を育て、成長の過程を見ていった。水やりや収穫の時には、多くの笑顔を見ることができた。また、おむつ交換では泡洗浄を取り入れ皮膚の悪化を防ぐことができました。職員がアクションを起こすことで、利用者の生活がより良くなっていくことを再確認した1年だった。</p> <p>2. 新型コロナウイルス感染症流行のため、研究発表会を開催することができなかった。介護技術などの研修会に参加するも、アウトプットが出来なかった。</p> <p>3. 本館、北館の二分化は実施できなかったが、フロア同士の協力体制は整いつつある。</p>
【 改 善 】	<p>定期的に個人面談を実施し、介護スキルの向上、モチベーションの維持を図り、利用者が当たり前の生活、やりがい、楽しみある生活ができるよう自発的に考え実行できる職員を増やしていく。</p> <p>1階2階、責任を持って業務につくことで、自フロアのみ意識を館単位の意識への変換を図る。助け合いの気持ちを持ち、応援体制を整える。</p>
【 部 署 】	特養各フロア
【 計 画 】	<p>【 本館 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の日々の状態を観察し、より良い生活を送って頂けるようケアの見直し向上に努める。また余暇活動を充実させていく。 ・事故、ヒヤリハット報告書の検証し、それを研究の土台にして取り組んでいく <p>【 北館 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からご利用者の状態を把握し、些細な変化にも気付く目を養う ・余暇活動を充実しながら、最期まで安心して過ごせる環境を提供していく ・ご利用者の状態に合わせたケア、環境作りを行う
【 結 果 】	<p>【 本館 】 ケアの見直しを目標としたことで、日頃からの状態観察、得た情報を共有することを意識付けることができた。</p> <p>余暇活動の実施率が低く、参加できる方にも偏りがあった。</p> <p>【 北館 】 些細な状態の変化をフロア職員間や他職種と情報の共有ができ適宜ケアの見直しを行う事ができた。</p> <p>看取りのご利用者に最期まで寄り添い安心して過ごして頂ける環境を提供できた余暇活動の実施率が低く単調な生活になってしまった。</p>
【 改 善 】	<p>【 本館 】 ケアの見直しとともに、情報をもとに事故の発生を防げるよう対策を考えていく。また、同様の事故を繰り返さないよう次に活かしていく。</p> <p>ご利用者の興味のあることを探り、余暇活動に取り入れていく。</p> <p>【 北館 】 業務の見直しや人員配置を検討し余暇活動を充実させていく。</p> <p>骨折等の重大事故が発生しないようヒヤリハットに気づく目を養う。</p>

【 部 署 】	特養看護師
【 計 画 】	1. 看護業務の見直し改善に努める ① 医務室会議を毎月開催する（業務内容の評価改善・情報の統一） ② 記録、チェック表の改善
【 結 果 】	①医務室会議はコロナ蔓延時に一度出来なかったが、ほぼ毎月全員が出席し実施が出来た。10月より第2金曜日に固定したことも会議が定着した一因と思われる。 ・北館の経管栄養の準備や手伝いなども都度話し合うことが出来た ・4月から実施している、DESIGN-Rも定着出来た （医務室内での活用は難しいが、褥瘡ケアの意識付けになった） ・毎月実施することで、あやふやな情報も確認する事が出来た ・主任発信ではなく、スタッフからの意見が出るようになってきた ②日々の記録はノートからパソコンに記入後、ファイリングするようになり、微少ではあるが業務の簡略化が出来た。処置表もパソコンベースに変更。まだ実施し2ヶ月しか経過していない為、今後評価予定
【 改 善 】	・記録や処置表については現在進行形の為、継続していく ・夕方の経管栄養のあり方、薬（配置薬）の管理など課題が残っており、検討していく。

【 部 署 】	特養施設ケアマネ
【 計 画 】	1. 令和3年度介護保険改正に添った多職種協働によるケアプランの作成 ① PDCA サイクルを推進する ② モニタリングの視点を統一し、本人のストレングスに着目し、重度化防止に取り組む ※モニタリングシートの視点を統一し、各職種からの意見を抽出する ※目標の達成度、実施内容、現況、提案事項等、モニタリングを実施する ※サービス担当者会議で、各専門職の意見を共有し、ケアの方向性を決定する ※加算算定対象者について、適切にケアプランを作成する
【 結 果 】	① PCDA サイクルは推進することができた。 ② 本人のストレングスに着目したケアプランを作成することで重症化を予防できた利用者もいたが、上手いかなかった利用者いた。 加算算定対象者について多職種と連携し、適切にケアプランを作成することにより、増収を図ることができた。
【 改 善 】	コロナ禍で、入所時・退院時以外は、家族参加のカンファレンスを開催できなかった。本人のご様子を家族にお知らせする方法を相談員と連携を図り、検討していく。

特養 介護支援専門員業務実績

令和3年度

カンファレンス（サービス担当者会議）

	回数	人数	家族参加人数	家族出席率 %	入所時	その他退院等	ターミナルケア			デス
							初回	モニタリング人	回数	
R3.4	11	68	5	7.4	1	33	0	0	0	0
5	6	55	2	3.6	0	25	0	0	0	0
6	12	63	10	15.9	3	25	1	0	0	0
7	8	68	4	5.9	1	29	0	0	0	0
8	10	69	3	4.3	0	25	0	0	0	1
9	7	56	2	3.6	1	27	0	0	0	0
10	10	64	7	10.9	4	26	0	0	0	0
11	8	71	5	7.0	2	26	0	0	0	0
12	9	61	6	9.8	3	26	0	0	0	0
R4.1	11	75	7	9.3	2	39	0	0	0	0
2	8	68	4	5.9	0	31	1	0	0	0
3	14	85	17	20.0	10	39	3	0	0	0
計	114	803	72	9.0	27	351	5	0	0	1
月平均	9.5	66.9	6		2.2	29.2	0.4	0	0	0.08

変更申請更新認定申請代行数

R3.4	3	(明石市 1)
5	5	(変更 1 三木市 1)
6	7	(小野市 2)
7	6	
8	5	
9	1	
10	5	
11	5	(三木市 1)
12	4	
R4.1	6	
2	5	
3	1	
計	53	
月平均	4.4	

認定調査数

R3.4	4
5	4
6	5
7	6
8	4
9	1
10	5
11	5
12	4
R4.1	6
2	5
3	1
計	50
月平均	4.2

【部署】	管理栄養士
【計画】	1. 栄養管理と給食管理の帳票管理方法の見直 ① 帳票管理の効率化により、加算算定対象者への対応する ② 栄養ケア・マネジメントの帳票に関する取り組みを一層強化
【結果】	① 厨房内での食数管理表と給食日誌を一体化する事により委託会社の記録を含めた給食日誌となり、記録の効率化に繋がった。 ② 各個人のエクセルシートでのモニタリングシートを作成することにより、経口維持加算と栄養ケアマネジメントのスクリーニング・アセスメント・モニタリングを1枚で把握することで、効率化をはかった。
【改善】	口腔・嚥下に関する評価を共通認識が必要である。介護職へ伝達するスキルアップが必要である。

【部署】	デイサービスセンター
【計画】	1. 営業ツールの刷新 ① コンセプトが一目でわかるリーフレットの作成 ② 利用時の様子が伝わる広報誌作り ③ 月3回の居宅・包括営業を行い、広報活動を強化(三木市含) 2. 加算の積極的取得 ① 成果報酬型の加算を取得し、デイサービスでの取り組みを内外的にアピールする 3. 併設居宅との連携 ① 新規利用者を柔軟に受け入れる体制を構築する為、業務フローの見直しを行う ② 共同で営業に行く 【1日30人・稼働率85%を最終目標に掲げ、目標値到達に向け上記3項目を遂行】
【結果】	1.リーフレットは見やすく分かり易いのを作成でき、月1回はリーフレットを持参し事業所まわりを行えた。広報紙は利用者様の画像を貼りつけるものが多く、以前と変わり映えしなかった。 2と3.加算を取得できるよう業務フローの見直しや方向性を模索したが、明確に出来なかった。「入浴介助」を最優先という意識から脱せず、様々なニーズに対応しきれなかった。
【改善】	イベント時は30名の集客は達成できているので、今後はいかに足を運びたくなる「魅力的な」ものを作りあげられるかを職員全員で考えていく。

【 部 署 】	居宅介護支援事業所
【 計 画 】	<p>1. 稼働率88%の達成に向けた業務の見直し</p> <p>① 西区内のサ高住（併設居宅のない）への営業を行い顧客取得に繋げる</p> <p>② 地域の医療や介護の各関係機関との顔の見える関係作りを強化し、連携を密に行う</p> <p>③ カイボケを利用し事業所との連携を図り事務作業の簡素化を図る</p> <p>④ 地域で行われる介護講習会等に参加し、地域とのつながりを持ち、地域での広報活動を行う</p> <p>2. 地域の相談窓口としての居宅介護支援事業所となる</p> <p>① 外部研修会に積極的に参加し、相談支援の専門性の向上とともに、社会人としての質の向上を図り、事業所全体のスキルアップを図る</p> <p>② 事例検討会に参加し、自身の相談支援の過程を振り返り、相談支援の向上に繋げる</p> <p>（ア）事業所内の勉強会を開催し、相談支援技術や計画書の作成概念を学ぶ</p> <p>（イ）地域ケア会議、あんしんすこやかセンター連絡会に参加し、地域のニーズを把握する</p> <p>（ウ）ケアプランを自立支援という視点で、個別性のある総合的なプランを立案する</p> <p>3. デイサービス・ショートとの連携強化</p> <p>① 積極的に体験利用等で利用者の紹介を行う</p> <p>② 送迎範囲や送迎時間についての弾力化を連携する</p> <p>③ 関係事業所への営業に同行する</p>
【 結 果 】	<p>1. 稼働率はあんしんすこやかセンターや関連事業所に営業をおこない、新規顧客を紹介してもらい達成できた。</p> <p>2. 他事業所との事例検討会に参加し、自立支援を目的としたプラン作成が行えた。</p> <p>3. 連携強化のために体験利用や紹介をおこない、利用に繋がった。また、他の居宅介護支援事業所にもデイサービスやショートの営業をおこない、チラシ配り等をおこなった。</p>
【 改 善 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ デイサービス会議に参加することで、顧客ニーズを伝える。 ・ デイサービスやショート利用者様の利用継続に繋がるように、顧客のニーズを随時、文書化して伝える。 ・ 各部署と情報を共有できる体制作りをおこなう。